

〔トルクロホスメチル水和剤〕

農林水産省登録 第16882号
 性 状：淡褐色水和性粉末 45 μ m以下
 毒 性：普通物
 危 険 物：—
 有効年限：5 年
 包 装：500 g \times 20 袋、1 kg \times 20 袋

リゾレックス®水和剤

有効成分：トルクロホスメチル……………50.0%



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報をご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
てんさい	根腐病	100倍	ペーパーポット 1冊当り1 l (3 l/m^2)	定植前	本 剤：1回 トルクロホスメチル：6回 (#1)	灌注
	葉腐病	500~1000倍	100~300 l /10a	30日前	本 剤：3回 トルクロホスメチル：6回 (#1)	散布
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	3 l/m^2	育苗中期	本 剤：1回 トルクロホスメチル：6回 (#1)	土壌灌注
ばれいしょ	黒あざ病	50~100倍	—	貯蔵前または 植付け前	1回	種いも浸漬 (10分以内)
麦 類	雪腐小粒菌核病	1000~1500倍	60~150 l /10a	根雪前	2回	散布
レ タ ス	すそ枯病 白絹病	1000倍	100~300 l /10a	7日前	3回	
キャベツ	株腐病	500~1000倍	—	—	—	
オ ク ラ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	1 l/m^2 (150 $ml/穴$)	は種時および 子葉展開時	2回	植穴土壌 灌注
ト マ ト き ゆ う り な す ほうれんそう		500倍	3 l/m^2	は種時	1回	土壌灌注
		種子重量の 0.5%粉衣	—			種子粉衣
ピ ー マ ン		500倍	3 l/m^2	—	本 剤：1回 トルクロホスメチル：4回 (#11)	土壌灌注
	種子重量の 0.5%粉衣	—	種子粉衣			
し し と う 甘長とうがらし	白絹病	1000倍	1 $l/株$	前日	本 剤：2回 トルクロホスメチル：4回 (#11)	株元灌注
			1 l/m^2			
メキャベツ	立枯症 (リゾクトニア菌)	500倍	3 l/m^2	は種、仮植時 及び定植時	3回	土壌灌注
アスパラガス	茎枯病		100~300 l /10a	#8		散布
	苗立枯病		—	#9		
み ず な	リゾクトニア病	1000倍	3 l/m^2	は種時	1回	土壌灌注

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
ねぎ	白絹病	1000倍	100~300ℓ /10a	土寄せ時 但し14日前	3回	株元散布
メロン	黒点根腐病	500倍	3ℓ/m ²	定植時	本剤:1回 トルコスメル:2回 (#2)	株元灌注
こんにゃく だいたず	白絹病	1000倍		生育期 但し、 21日前		
ふき			30日前	3回	株元灌注	
りんご	紫紋羽病		40ℓ/樹			60日前
さやえんどう 実えんどう	茎腐病	種子重量の 0.5%粉衣	—	は種時	本剤:1回 トルコスメル:3回 (#4)	種子粉衣
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	1ℓ/m ²	7日前	本剤:2回 トルコスメル:3回 (#4)	土壌灌注
みつば	立枯病	500倍	0.5ℓ/m ²	は種時	本剤:1回 トルコスメル:3回 (#4)	
みつば (水耕栽培)				育苗期 但し、収穫 40日前まで	1回	株元灌注
うど	白絹病	1000倍	100~300ℓ /10a	45日前	本剤:2回 トルコスメル:3回 (#6)	
はすいも (葉柄)	茎腐病			7日前	3回	
ぎぼうし	白絹病		1ℓ/m ²	90日前	2回	株元灌注
ブロッコリー	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	3ℓ/m ²	育苗期	本剤:2回 トルコスメル:3回 (#7)	土壌灌注
				21日前	本剤:1回 トルコスメル:3回 (#7)	株元灌注
豆類 (未成熟、ただし、さやえんどう、実えんどう、未成熟そらまめを除く)		1000倍	1ℓ/m ²	は種時	1回	土壌灌注

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法	
未成熟とうもろこし	紋枯病	1500倍	100~300 ℓ /10a	14日前	2回	散布	
みょうが (花穂)	白絹病	2000倍	5 ℓ/m ²	みょうが (花穂)の収穫 14日前まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあっては開 花期終了まで		2回	土壌灌注
みょうが (茎葉)				1000倍			
にら		にら(花茎)	前日			株元灌注	
ふだんそう	立枯病	500倍	3 ℓ/m ²	は種時 但し、収穫 30日前まで	1回	土壌灌注	
みぶな	立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	1 ℓ/m ²	は種時	本剤: 1回 トルクロスメチル: 2回 (#10)		
未成熟そらまめ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)			前日		本剤: 2回 トルクロスメチル: 2回 (#10)	株元灌注
	茎腐病						
花き類・ 観葉植物	立枯病 株腐病 茎腐病 白絹病	500~1000倍	3 ℓ/m ²	生育期	5回	土壌灌注	
スイトピー	腰折病			—		株元灌注	
カーネーション	根腐病			生育期		土壌灌注	
アスター	苗立枯病 (リゾクトニア菌)						
ハイドランジア	葉腐病			100~300 ℓ /10a		散布	
チューリップ	葉腐病			100倍		100 ℓ/10a	植付前
		200倍	200 ℓ/10a	植付後 ~萌芽前	全面土壌 散布		
樹木類	くもの巣病	1000倍	200~700 ℓ /10a	発病初期	5回	散布	
	白絹病					株元灌注	
えぞまつ(苗木) とどまつ(苗木)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		3 ℓ/m ²	発芽後 (発病初期)		苗木兼 全面土壌 散布	

#1: 育苗土壌への混和は1回、500倍希釈灌注は1回、100倍希釈灌注は1回、散布は3回

#2: 定植時は1回、生育期は1回

#3: 定植前の土壌混和は1回、株元灌注は1回

- #4: 種子粉衣は1回、は種時の土壤灌注は1回、生育期の土壤灌注は2回(但し、は種時に土壤灌注をする場合は1回)
- #5: は種前の土壤混和は1回
- #6: 粉剤は1回、水和剤は2回
- #7: 育苗期は2回、定植後は1回
- #8: 収穫後から茎葉刈取り期まで、但し、収穫14日前まで
- #9: 株養成期(は種又は定植時から茎葉刈取り期まで)但し、収穫14日前まで
- #10: は種時は1回
- #11: 種子粉衣は1回、は種前の土壤混和及びは種時の土壤灌注は合計1回、株元灌注は2回



効果・薬害等の注意

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。
- てんさいの根腐病、葉腐病に対しては、予防的に散布する。また、根腐病に対しては株元を中心に散布する。
- 野菜類の苗立枯病防除では、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、他の病原菌による苗立枯病には効果が劣るので、それらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用する。
- ばれいしょに使用する場合は次のことに注意する。
 - 浸漬処理の場合は、所定濃度の薬液に瞬時～10分間浸漬する。
 - 処理した種芋はよく風乾してから貯蔵または植え付ける。
- さやえんどうの茎腐病に使用する場合、多発地では種子粉衣処理では効果が不十分な場合もあるので、土壤灌注処理と組み合わせて防除する。
- オクラの苗立枯病に対しては、植穴または株元に灌注処理をする。
- 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対流さず、適切に処理する。
- 本薬剤を施設で使用したあと、施設内に臭気が残る場合には換気を行う。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。
なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。



安全使用上の注意



- 眼に入らないように注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。(刺激性)
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用する。
作業後はうがいをするとともに洗眼する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 本剤で処理した種いもは食料や動物飼料として用いない。

〔品目特性〕

- 有機リン系の殺菌剤です。
- 作用機作は未確認ですが病原菌の運動機能や細胞分裂の制御機能に影響を与えて殺菌効果を発揮すると考えられています。
- 予防的な処理で効果があります。
- リゾクトニア属菌、コルティシウム属菌、ティフラー属菌などに対して効果があります。
- りんごの紫紋羽病にも効果があります。